

研究実施のお知らせ

研究課題名：スタンフォード B 型大動脈解離内科治療中の酸素化障害に対する高流量経鼻酸素療法の検討

研究期間：倫理審査委員会承認後～2025年12月31日

仙台市立病院では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年5月30日施行）に基づき、匿名化された情報（診療録等）の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の対象となる方】

2014年11月～2025年12月に当院集中治療室でスタンフォード B 型大動脈解離内科治療中の酸素化障害に対して高流量経鼻酸素療法を受けた患者さん

【研究の目的と意義】

スタンフォード B 型大動脈解離では解離に伴う合併症のない方では血圧コントロールや鎮痛、安静といった内科的治療が選択されます。その治療中に肺の酸素化障害が起こることがあります。現在の医学では原因は明らかとはなってはいませんが、解離による炎症反応物質が肺に影響を与えたり、安静で体を動かさないため肺が潰れてしまう無気肺になったり、胸に水のたまる胸水で肺が潰れてしまったりなどが理由として考えられています。酸素化障害が軽度ですと酸素マスクによる酸素投与を行います。中等度以上になると高流量経鼻酸素療法といって酸素濃度を調整し加湿した酸素を高流量で鼻から投与する方法を選択します。痰の排出や無気肺に有効とされています。今回、高流量経鼻酸素療法を行った患者さんの特徴を調査することにより、早期から高流量経鼻酸素療法を行ったほうが良い患者さんはどのような患者さんなのかを検討させていただきたいと思います。これにより発症早期から高流量経鼻酸素療法を始めたほうがよい患者さんを選択することができ、肺の酸素化障害を予防することが期待できます。

【研究の方法】

患者さんの診療録等の診療情報を用いて、集計、単純な統計処理等を行う後ろ向き研究です。

【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録に記録された診療情報（年齢、性別、身長、体重、入院時の炎症反応をみる血液データ、酸素化の程度、CTによる胸水の程度とその経時的変化、集中治療室滞在日数、入院日数等）を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、倫理指針等により個人情報情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【研究の実施体制】

研究責任者：仙台市立病院 麻酔科 医長 安達厚子

共同研究者：仙台市立病院 麻酔科 部長 安藤幸吉

【お問い合わせ先】

この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が学会発表・論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できません。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

仙台市立病院 麻酔科

研究責任者 安達厚子

麻酔科部長 安藤幸吉

仙台市太白区あすと長町一丁目 1 番 1 号

電話：022-308-7111（代表）